

ウワサの保護者会！

今日のテーマは「わが子のこだわりファッション」どう思いますか？

高山 : ファッションへのこだわり、お嬢様はどうでしたか？

尾木 : 僕の娘が中学校時代にね、ルーズソックスが、腹巻きみたいなんだもの。あの干しているときの姿。あれが、不気味でしたね。

高山 : 不気味…(笑)

尾木 : いや、でも僕ほら、学校の教員やっていたでしょう。自分の学校に行ったらみんなそんなのよ(笑)だから、みんな仲間意識あるんだと思ってね。ああ、自分の子もそうなんだと思って、すごく我慢していた(笑) やっぱ言いいたくなるよ、はっきり言って。

親も戸惑う、わが子のファッション。

お悩みを、6人のホゴシャーズが、ぶっちゃける！

【今回のホゴシャーズ】

オリーブ (父) : 長女・小2

チェリー (母) : 長女・中3 / 次女・小1

トウガラシ (母) : 長女・小5

れんげ (母) : 長男・高3 / 長女・中3

ヒイラギ (母) : 長女・高1 / 次女・小4 / 三女・小2

ラッコ (母) : 長女・小5 / 長男・小2



チェリー : 今、小学1年生の次女なんですが、髪型にとにかくうるさくて、アニメのキャラクター、ヒロインの髪型にしてくれて毎朝言ってくるんですね。「それってどういう髪型？」って聞いたら「こっち側をこうねじってこっち側に持ってきて、それを2つに分けたらここクルクルして」みたいな感じで…。「もうそんな、美容師さんじゃないし、朝も忙しいし、そんな技術ないし、無理よ」というやりとりをほぼ毎日やっています。

高山 : 結局、じゃあどういう髪型で？

チェリー : 結局、1本。

「今日はポニーテールね」とって、そういう感じです。

高山 : 続いて男性1人です、オリーブさん。

オリーブ : 朝の(娘の)コーディネートというか、着替えを私がやるんですけども。

特に最近、2年生になって、だんだん色とか服にも愚痴を言うようになってきて「これ嫌だ」とか「これ昨日も似たようなのを着たよ」とか。

高山 : じゃあ、バトルがあるんですか?

オリーブ : 子どもにまずダメ出しをされるわけですね。ママも「あれ、今日これ変じゃない」とか「上下がちょっとおかしいんじゃないか」とか、バランスとかですね。

もう1回やり直しと。

高山 : えっ?やり直し?

オリーブ : (コーディネートの)やり直しになって、また上から下から着替えさせると、30分ぐらいかかってしまったりするんですね、洋服だけで。

高山 : 朝の30分はデカイですね。

れんげ : 娘がすごく黒にこだわってしまって、もう周りや私から見るとカラスも同然のような感じで、もう冬もコートから全身全部。

高山 : 真っ黒?

れんげ : 真っ黒。靴まで真っ黒。

お兄ちゃんは、高3なんですけど、異性にちょっと目覚めてきたのか、年ごろなんで、表参道系な感じに変わっちゃったんですけど…。1つだけダサい、なんか外国人さん向けに売られている“神戸”っていう文字(のTシャツ)。

「ええ!?何で」って、みんな家族3人わからない。

高山 : 異性を意識してこのTシャツ(神戸Tシャツ)というのはこれちょっと理解に苦しむ。

れんげ : わからない。ちょっと理解に苦しんでいるんです、だから。

高山 : 外国人の彼女とか?(笑)

れんげ : もしかしたら、もしかしたら、そうなんですかね!(笑)

トウガラシさんも、わが子のこだわりファッションに戸惑い気味!

小学5年生のみおちゃんは、自称、オシャレ番長!



寝る前に、次の日学校に着て行く服を念入りにコーディネート。

みお : いい! 100 (点) !

完成したコーデがこちら。



みおちゃん、決まってる～!

コーデのポイントは、このデニムのショートパンツだそう!

みお : デニムのショートパンツは、春夏秋冬合う!

細く見えるんじゃないかな。

さらにみおちゃん、ここにもこだわりが!

みお : リボンと同じ赤が (ショートパンツに) 入っているから、似合うと思いました。

こだわりますね?

みお : こだわります!

さらに足元は、スパッツの上に、レッグウォーマー。重ね着テクニック?

みお : 冷え性になりやすいので、これをしています。

レッグウォーマー (もふもふ)。

あら、そこは、意外と実用的なのね。

みおちゃんの、ファッションへのこだわりは、服だけにとどまらない。

登校前。しきりに気にしているのが…前髪!



シュッ！シュッシュッシュッ！

(髪用スプレーを前髪にかける)

みお : 短くなってないかな～って (チェックする)。いつもママに切られるから「前髪切るよ」って言われて。前髪の長さは眉毛の下ぐらいがいい。この太い眉毛を隠せるから。

トウガラシ : 私はもう、ここの眉毛の上でぱつって切ったほうが可愛いんじゃないかなと思うんですけど。本人はまつ毛にかかるぐらいが、最高にカワイイと思っているみたいで。

オシャレに目覚めた子どもの、ファッションへのこだわり。
皆さんの家では、どうですか？

高山 : ホゴシャーズの皆さんから「かわいい、かわいい」ってね、声が上がっておりますけども。

トウガラシ : (朝) 家を出る直前に「あ、違う。なんか、これとこれ同じ色だ」とか言って「こっちは薄くしたほうがいいな。ちょっと待って、ちょっと待って」って言って、自分で全部バーっと服を脱いで、着 (替え) て「行ってきます」って言うんですけど、ランドセル置きっ放しとか…。何しに (学校に) 行くんだっていう (笑)

高山 : みおちゃんは、髪の毛だけじゃなくて、最近、体の毛についても少し悩みがあるようですが。

トウガラシ : そう。ちょっと、体毛が少し生えてきていて。腕とか足とかに。

3年生のときにマラソン大会があって、もちろん短パンと半袖なんですけど、当日に「私は、この毛が気になってマラソンを本気で走ることができない」って言われて (笑)

すごい近くで見て、1センチぐらいの毛が5本ずつくらい、腕とか足に生えていて、それを私がひざまずきながら、1本1本シュッって (カミソリで) そったんですけど。

尾木 : やっぱね、今の子どもたちね、ものすごく“おしゃれの感覚”というのが、低年齢化している。もう、本当に下がってきていますよね。

高山 : 書店に行くと、小学生用のファッション誌とか、もう何誌もありますもんね。

尾木 : そう。(ファッション誌を) 学校持ってきたりして、みんなで見ていたりとか、あるいは塾で見ていたりとかするから、家庭で見ていなくてもものすごく情報が豊かになってきている。

今ほら、パソコンなんかのネット検索で (ファッション情報が) すぐ出るでしょう。

オリーブ : 最近、アプリのゲームもそうなんですよね。例えば、ヘアスタイルを遊ぶアプリとかですね、いろんな色でコーディネートしてヘアスタイルを変えたり。あとは洋服の衣装替え、着せ替えみたいなアプリ。(娘が) そうなのがすごく好きみたいで。選ぶことはもちろん楽しいんですけど、果たしてその子にとって本当に必要なものかっていうところに突き詰めていくと、なかなか難しいかなっていう部分もありますよね。

ヒイラギ : 街なかとか見ていると、たまにもう本当に大人みたいな格好している小学生、小さい子とかいるんですけど。

チェリー：結構、露出がすごくて、逆に怖いんですよね。変な目で見られているんじゃないとか。

ラッコ：でも、何歳からそういうファッションに切り替えていった方がいいのかも、正直わからなくて。

今、小学校5年生の女の子で、そろそろ大人っぽい洋服を選び始めているけど「いや、まだそれは早いでしょ」って言うべきなのか、周りの子がそういう洋服にし始めたら「うん、そうね。じゃあ、ちょっと着てみる？」とかって勧めていいのか、ちょっと悩んでいますよね。

尾木：そうですね。小5の女の子なんていうのは、一番悩むと思います。

トウガラシ：今、認め過ぎると、今度からなんでもやっていいんじゃないかって思ってしまうんじゃないかなと思って。キャミソールとかへそ出しでガーって街を歩いたりとか、なんかそんなこともしちゃうのかなって(心配で…)

尾木：でも、やっぱり「それは違うんじゃないかな」っていうのを、しっかり伝えていいんじゃないかと思っています。

それから、“男性から見た女性”みたいなこと、(肌は)そんな見せるものじゃない、売り物にするんじゃないよっていうのは、とっても大事な、性教育の1つでもあるような気がしますね。

小さいころから、ファッションへの意識が高まっている、今。

子どもが着たい服、親はどう受け止める？

こちら、ヒイラギさん一家。今日は、娘のゆうかちゃんと、るいちゃんの洋服を買いにやってきた。



姉のゆうかちゃんが真っ先に向かったのは、ボーイズコーナー。

ゆうかちゃんは、かっこよくてユニークな服が、大好き！

選んだのは、このシャツ。



ヒイラギさん、小4になったゆうかちゃんの服選びでは、本人の意思を尊重している。

一方、妹のるいちゃん。

るい : ん～、どれがいいかな。

選んだのは・・・

るい : あっ！これがいい！

ヒイラギ : え、これ？

え、ドレス？

ヒイラギ : ちょっとこれは…、いや可愛いんだけど…。

これだとしょっちゅうふだんさ、着られないよ？

学校に着て行く服を選びに来たはずなのに・・・手に取るのは、いつも、ゴージャスなドレス。



さすがにお母さん、るいちゃんには口を出す！

ヒイラギ : これすごいね…うん。これふだん着るの？

るい : うん、着るの。おでかけに！

ヒイラギ : でも学校は無理だからね！

(るいちゃん、キラキラのドレスを合わせて。)

ヒイラギ : これすごいよ。

るいちゃん、どうしてそんなにドレスが好きなの？

るい : プリンセスになった気分。お友だちとかと、似ている服はちょっと嫌だ。

自分のほうが目立ちたいっていうか。

るいちゃん、お母さんを押し切り、この日も、ドレスをGET！
ヒイラギさん、姉のゆうかちゃんの分と合わせて、計5点を購入・・・。

ヒイラギ：2人とも、似たような（好みの）服だったら着回しできるのに、全く違うからちょっと大変です。

子どもが「着たい！」って主張する服を、保護者の皆さん、どう受け止めていますか？

高山：2人とも似合っていますけど。ずいぶん、趣味が違うんですね。

ヒイラギ：全く違うんですよ（苦笑）

ゆうかのほうは、小さいときにかわいいフリフリの服を着せていたんですよ。そしたら、途中からなんか「もう嫌だ」って言い始めて「カッコイイのがいい」とかそういうのが出てきて。

1番下のるいは、もう3人目だから（生まれる前に性別を）聞かなかったんですよ。ちょっと、自分自身の性格が、キツくなっているなっていうのがあって（笑）

高山：妊娠中の話ですか？

ヒイラギ：そう。妊娠中に（性格が）キツくなると男の子だとかよく言うから「あ、これ絶対男だ！」と思って、結構男の子の物もそろえて。「初めての男の子だし」って、もう勝手に考えて。

そしたら、女の子だったから（笑）でも、男の子の物とかも着せたりとかして。たぶん、幼少期と、逆の反動がきているんじゃないかなっていうのもあるんですけど。とにかく、真逆！

高山：じゃあ、ちょっと子どもの頃に自分が押しつけちゃったかなっていう思いもありますか？

ヒイラギ：そうですね。勝手に、そういうふうに押しつけちゃった部分もあるかと。

尾木：1番下のお嬢さんなんか、完全に自我に目覚めてきて、お母さんが揃えてくれたボーイッシュなんじゃなくて、自分で女の子らしいのが好きだなっていうのがはっきりしてきたんだもんね。それ素敵なことだと思います。

だから、心の成長とファッションがやっぱり一致していると思うよ。

高山：かつてのヒイラギさんのように、親が着せたいなっていうものをお子さんに着せた経験があるっていう方？

（ラッコさん・チェリーさん・れんげさん挙手）

高山：結構いらっしゃいますね。ラッコさんは？

ラッコ：娘が生まれたときは、私はお姫様っぽい、スカート、ワンピースを着せたかったんですよ。でも、主人がどっちかっていうと、そういった格好がすごく嫌いで、アメカジのようなファッションのものを買ってきちゃうんですよ。GパンにTシャツっていう。

娘が5歳、6歳ぐらいまでは、ずっとそのやり合いで「今日は、私が洋服選ぶ」「いやいや、俺も買って来たよ」とかっていう。もう子どもの意思なんか全然聞かなくて、親が何を着せるかのリカちゃん人形的な感じでした。

高山 : あらあら、着せかえ人形的な感じ？

ラッコ : はい。もう、そんなことをやっていましたね。楽しかったですけどね。

高山 : 楽しかったじゃないですよ (笑) 自己満足じゃないですか！よろしくないですよ、それ (笑)
さあ、じゃあ、今度はチェリーさんいきましょうか。

チェリー : はい。私が、はまってしまった子ども服のブランドがありまして、それを「着せたい！」っていう思いで、そこの洋服ばかり購入して。

高山 : たくさんって、どれぐらいですか？

チェリー : 年間では、でも、10万円…くらいかと思うんですけど。

高山 : 年間10万円ですか？お子さんの服ですよ？

チェリー : はい。

ヒイラギ : すごいですね。

チェリー : (私は) 小さいころからファッションには興味がありました。

小学生なのに高校生のお姉さんがするような、聖子ちゃん (ファッション) やら。



尾木 : 聖子ちゃんだ！

ヒイラギ : あれ中学校1年生？ (驚)

チェリー : はい。大学生ぐらいにやっぱり見られていましたね。

周りの友だちからは「ナウいね」とか、言われて (笑)

れんげ : 懐かしーい！

尾木 : 「ナウい」久しぶりに聞いた (笑)

チェリー : やっぱり、こう一目置かれる快感っていうのがあって、やっぱりうれしかったので、そういう気持ちを (子どもにも) 味合わせてあげたいなっていう思いから、ちょっとお高めのブランド服を着せたりっていうのに、つながっているんじゃないかと。

トウガラシ : 私は妹がいて、私が青系で、妹が赤ピンク系って、なぜかもう決まっちゃって。



トウガラシ：私が青ですよね。私が青で妹が赤で、私小さいころは髪も短かったんで、常に男だと思われて、上はお兄ちゃん、(下は)妹みたいな感じで言われたりするのが嫌で。

「赤欲しい」って言っても「これは妹の色だから、あんた青ね」っていう感じでした。

高山：色分けされちゃっていたんですかね。

トウガラシ：やっぱり私が赤とかピンクを着たかったんで、まあ、娘は女の子だから、もう絶対赤とかピンク(がいい)だろうと思って、ピンクをばんばん着せて。

トウガラシさんの娘、みおちゃんは、小さいころは、お母さんの好みで、ピンクの服ばかり着ていた。



そして、小学5年生になった今、よく着ているのが、ブルー系の服。

あれれ? ピンクじゃないの?

みお：自分自身も、水色似合うなって思っているから。

ピンクの服を着なくなったのは、小学2年生になってすぐのことだった。

トウガラシ：持ち物もバックも帽子も靴も、みんなピンクだったのに急にそれをやめて、水色! 青! グレー! って言い出したので、どうしたのかなと思ったんですけど。

みおちゃん、一体どうして?

みお：目立つ服は着たくない。

そうなんだ、どうして?

みお：自分が目立つと嫌だから。なんか、かわい子ぶっているとイジメられそうだから

今では、ピンク色の服を着ることはほとんどなくなった、みおちゃん。

その気持ち、皆さん、どう思いますか…?

トウガラシ：(小2のとき) 家に帰ってきて「もう嫌、私はもう絶対これ着ないから！」バーンって。

高山：脱ぎ捨てる？

トウガラシ：はい。

チェリー：友だちにやっぱり言われたんですかね？

トウガラシ：(小学校で)「全部ピンクだよ」とか「幼稚園児みたい」って言われたみたいで。

全身ピンクだと目立つし、あと幼く見えるみたいで。(体が)小さいのはもともと気にしていたんですけど、“人生で初、傷ついた”という感じで、自分の中でなにかがバーンとはじけて「もうピンクいらない！」って。

高山：ちょっとピンクを使ってあるものも嫌なんですか？

トウガラシ：裏地がピンクも嫌だ、靴底がピンクも嫌だ。

尾木：靴底まで？

ラッコ：相当傷ついたんですね。

トウガラシ：私もピンク好きだし、これで2人の好みがあったら、突然拒絶されて、私もガッカリ。

尾木：ショックだね。

ラッコ：私も同じ経験で、娘が小学校2年生ぐらいに「いつもピンク選んでくるけどさ、ピンク好きじゃないんだけど」って言われて「えっ、好きじゃなかった…。じゃあ、何色が好きなの?」「黒!」とか言われて。

「あっ、何だ反抗期か」とか思いながら(笑)

あまり、そこは個人的には気にしてなかったんですけど。

オリーブ：服もそうですけど、例えばヘアスタイル1つにしても、ヘアバンド、ヘアゴムを着けるのも、以前はなんか音が出たりとか、シャカシャカするようなものとか、大きいハート型とか、好きで着けていたんですけど、最近、控え目のものだったりとか、着けたくないとかいうのも増えてきて、あまり目立ちたくないのかなということが。それが、2年生ぐらいから、ちょっとずつ意識というのが出てきて、そのあたりも少し気になるんですけどね。

トウガラシ：目立ちたくないっていうのも、わかるんですけど。

ラッコ：わかる気がしますよね～。

チェリー：上の娘が今、中3なんですけど、経験上、たぶん(気にし始める)境目が小学校3年生ぐらいなんですよね。みんなと同じでいたいという。

れんげ：そう。なんか「自分だけ目立つのが嫌だ」というのを娘から聞いたことがあって。

小学校5年ぐらいのときに「黒だと周りから目立たないから、それでいいんだ。落ち着くんだ。安定するんだ。反対にふわふわとしていない子を見ると、やっぱり目立って、イジメられる対象になっちゃうんだよね」というのを聞いたときに「ああ、だから黒を好きで着ているのかな」というのがあって。

やっぱり精神的、心理的にもそういうのがあるのかなというのは、聞いていて思うことがあった。

高山：皆さんの思いがね、今、1つに。

尾木 : だいたい重なってきたよね。やっぱり小学校の2年生後半から3年生というのは、学校の先生から見ていても、1つの節目なんです。 “9歳の壁” という言葉でよく言うんですけども。1年生のときはよくわかんないんだけど、2年生ぐらいになって、ちょっと学校生活の様子がわかってくるじゃない。人様のことが目に見えるようになってくるでしょ。3年生ぐらいになると、今度はもう1つ、クラス替えがあるんです。それで、他人をよけい意識するわけ。その中で、自分がどんなポジションに座るかというのがものすごく重要なんです。周りの雰囲気を見逃してしまっていて、やたらピンクピンクでやっていると「あの子、何」ってなってる、イジメとまではいかないけれども、ちょっと変わっている子とか、幼稚っぽいというふうに見られる。そうすると、ものすごく傷ついちゃう。だから、黒だとか、ブルーだとか、そういうちょっと沈んだ色で、みんなの中に隠れてしまおうとするの。カモフラージュしちゃう、カメレオンさんみたいになっちゃう。

そういう心理というのはすごくわかっていて、それ社会律というんです。【社会律=(親や先生ではなく) 仲間に合わせて行動する時期】 社会に律しられていくというの、よくも悪くも。服装の選び方というの、自分が見えてきて、全体も見えてきたって証拠だと思う。



高山 : 順調に成長していますという証なんですか?

尾木 : 証だと思う。

ラッコ : なんかファッションとして(黒を)意識しているんだしたら、すごい安心ですよ。

れんげ : (ファッションとしてだったら) いいんですけどね。

高山 : シックな色合いだったらいい。

れんげ : 今新学期で、まさにクラス替えがあつて、本当にまだ、精神的に不安定な部分もかいま見えるので、やっぱり不安なとき、黒が落ちつくのかなって、見ていて思うことも正直あつて。

ラッコ : (娘の) クラス替えがあつて、今まで仲よかった子と1人同じクラスになれたんですけど、その子がしゃべってくれなくなったんです。その頃から、やっぱり黒い洋服を選ぶようになって、気持ちが沈んでいるなって感じて、気持ちと選ぶものが一緒になってきているのかなって思いました。

だから、私と出かけるときとかは、できるだけ私が明るい色、黄色とかピンクを選んで、一緒に映画観に行ったりするようにしています。

高山 : いいですね。

尾木 : ちゃんと、バランスがとれているんですね。

4月、5月の時期なんかは、ちょっと地味目にして、周りの様子を見てみようというのも一つの知恵だし、おかしくはないと思いますよね。それがたぶん秋ぐらい、10月ぐらいになると変わってくると思いますよ。

れんげ : ちょっと見てみます。

尾木 : 変わってくると思います。その中で派手な色になってくると「おお、うちの子は、学校の中で、自分のポジションを押しえたな」とかね、いろんなことがわかってくると思う。自分の子が住んでいる社会が今どういう状況か、学級、学年がとかね。あるいは、今、日本社会全体のファッションだとか、そういうのにも影響されているから、ちょっと視野広げて見てあげたほうがいいと思うわね。

ラッコ : はい、そうですね。

高山 : 結構、だからデリケートな心を映しているということですよ。

ラッコ : そうなのかなと思いますよね。選ぶ服って。



ウワサの保護者会では、子育てにまつわる、さまざまなテーマをお届けします。

みんなの知恵が集まるホームページも必見!

(終)